

# 変形性股関節症

多くは女性、出産後に痛み

股関節は太ももの付け根の関節で、体重をささえ生涯酷使されますが、膝関節のように痛みを起すことはまれで、関節面がすり減ることもありません。骨盤の丸い凹み（臼蓋）に球形の大腿骨の頭が入っただけの簡単な構造のためと思われます。しかし、赤ちゃんの時に股関節の脱臼があると、骨頭が少し外にずれ臼蓋が浅くなる異常が残ることがあります。この状態が続くと次第に関節面はすり減り、さらに骨まで壊れ、ついには骨頭がいびつに変形してしまい、痛みで歩けなくなります。変形性股関節症の原因はわが国ではこれが8割をしめ、女性がほとんどです。

出産の後や、40歳を過ぎたころから発病することが多く、股関節の痛みで足を引きずる

ようになり、長歩きができなくなります。お尻や太ももの痛みが始まることもあります。進行すると靴下が履きにくくなったり、足の長さが違ってきます。股関節や太ももの痛みを感じたら、整形外科を受診しましょう。赤ちゃんの時に股関節脱臼があった人はなおさらです。

この病気の初期では、進行予防のため急な動作を避け、長歩きをしない、重たい物を持たない、体重を増やさないといった注意が大切です。この病気はゆっくり進行するので、注意を守り生活すれば一生仲良く付きあっていけることがほとんど。しかし、30〜40歳ごろ急に悪化することもあります。そのときは骨頭と臼蓋の関係を正常化する、臼蓋回転骨切り術が最近では行われており、病気の進行予防に非常に有効です。進行した方には、関節全体を人工の関節に換える人工関節置換術が必要です。

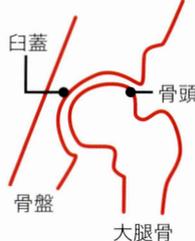
## 臼蓋と大腿骨のようす

〈変形性股関節症〉



変形した骨頭は外側上方にずれている

〈正常な股関節〉



そのほか、お酒の飲みすぎやステロイド剤の長期使用で大腿骨頭が潰れる、大腿骨頭壊死症もこの病気の原因になります。これは男性にも多いので注意してください。